

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501987		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・与野大戸		
所在地	埼玉県さいたま市中央区大戸2-10-12		
自己評価作成日	令和7年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.shlw.go.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_027_han=true&amp;jkyosyoCd=1176501987-004ServiceCd=320">https://www.kaiyokensaku.shlw.go.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_027_han=true&amp;jkyosyoCd=1176501987-004ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和7年11月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで出来なかった地域交流に参加出来る様になりました。チームオレンジに参加し地域の中で活動している団体の方と交流もてる様になりました。近隣のオレンジメンバーとメールのやり取りをし、大イベントに参加しました。4月に大規模防災訓練でAEDの使い方、地震体験車、非常食の試食を実施しました。5月に近隣施設が主催する与野公園内の清掃活動に参加、6月に近隣の保育園で園児との交流会開催。近隣の他社施設と職員の特技を披露する事になり、ボランティアのオカリナ、バイオリン、ピアノの伴奏で園児が歌える曲を披露する事が出来ました。お互いの施設を訪問し、イベントに備えて練習をしました。園児の皆さん、保護者の方、オレンジカフェメンバーにとっても好評でした。片道1.5キロを徒歩や車椅子を使い散歩をしながら参加できた事も素晴らしいです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR埼京線「南与野」駅東口から徒歩9分の場所に位置する、鉄筋3階建て・3ユニット定員27名のグループホームである。周囲には大戸公園があり、緑豊かで静穏な環境に立地している。これまで課題としていた地域交流活動では、オレンジカフェへの参加を契機として、地域団体や近隣住民とのつながりが広がり、各種イベントへの参加が継続的に行われている。4月には大規模防災訓練に参加し、AEDの使用体験、地震体験、非常食の試食、与野公園の清掃活動などを実施している。また、地域の保育園児との交流会では、他施設と協力して楽器演奏を披露し、園児とともに歌を楽しむ様子が見られた。事前の合同練習の成果もあり、園児や保護者、地域住民から好意的な評価が得られた。さらに、会場までの片道約1.5キロメートルを車椅子で移動し、散歩を兼ねて参加できたことが、利用者の活動範囲の拡大に寄与した。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を職員が確認できる場所に掲示しています。 いつでも確認ができる様に対応しています。	理念は各フロアに掲示されており、会議や日常的な話し合いの場において、心のケアを重視した支援についての検討が行われている。 職員間で理念の理解と共有が図られていることが確認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していないが、オーナー様のご自宅へ訪問してホーム内の様子やご利用者様の様子、地域交流について意見交換できる環境が整いました。	自治会には未加入であるが、本地域に居住するオーナー宅を訪問し、ホーム内の状況や利用者の様子、地域交流の取り組みについて報告し、意見交換ができる環境が整った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの活動を通し、近隣施設との繋がりが出来てきました。 近隣の他社施設に訪問して音楽会のリハーサルを行い、コミュニケーションを取ることが出来ました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、オレンジカフェを開催しています。 ご家族様にも参加出来るイベントを企画し、ご家族様参加型オレンジカフェを開催して地域の近隣施設にも一緒に訪問する事が出来ています。	2か月に1回、オレンジカフェを兼ねて運営推進会議を開催している。参加者は、家族、地域包括支援センター、民生委員、近隣施設の関係者などで構成されている。家族参加型のオレンジカフェを実施し、地域の近隣施設とも連携しながら、共に活動を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	オレンジカフェにはさいたま市役所の担当者様も活動に参加しています。	管理者は行政機関を訪問し、報告や定期的な意見交換を通じて協力関係の構築に努めている。また、オレンジカフェにはさいたま市の職員も参加しており、随時情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 身体拘束廃止委員会を3カ月に1回、研修を年2回開催しています。	毎回テーマを決めて、テーマに添って職員の意見を書面で確認しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、年2回の研修を実施している。研修では、身体拘束や虐待に関する理解を深め、確認テストを行い、得られた知識を入居者との関係づくりに活かす取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 虐待防止委員会を年3回、研修を年2回開催しています。	毎回テーマを決めて会議を開催しています。 虐待は身近の事と言う認識を常に持ち、職員会議などでも強く話をしています。 毎回課題提出も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回は10月23日にオレンジカフェ内の企画で「オムツ勉強会」を開催します。施設職員、近隣施設、地域の方、オーナー様にも参加を募りました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を頂き細かく対応しています。もちろん入居後も同じ様に困った事には随時対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人一人のケアを支援できる様に対応しています。ご家族様の考え方も一人一人違います。ご利用者様、ご家族様に合わせた対応をしています。	一人ひとりに応じたケアが提供できるよう支援を行っている。職員は、メールや電話、家族来訪時などを通じて家族とのコミュニケーションを大切に、意見を伝えやすい雰囲気づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を行い、職員の意見を聞いています。外国籍の職員も参加し、意見交換を行い各階で課題に取り組んでいます。	月1回の会議や日常的な話し合いの場において、職員の意見を聴取し、運営に反映している。外国籍の職員については、漢字の理解が難しい場合もあるため、個別に理解度を確認しながら意見交換や情報共有、相談を行い、その意見やアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、個人的な事、家族の事、収入の事など細かく確認をしています。業務日数を増やす、減らすなどの相談にも対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り声をかける事や、一人にしない事で自信を持って貰える様な言葉を掛けるようにしています。長続きできる様にサポートをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣で協力要請がある時には対応して、交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は席の配置に気を配ります。 トラブルがない様に職員が間に入り対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査時に出来る限りの聞き取りをします。 本人調査と家族調査と分けて対応する事もあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り実態調査を行いご本人の意向を確認しています。 ご家族様の意向確認後ホーム内でケアカンファレンスを行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、居室内の掃除、ご自分の事等、出来る事はお願いしています。 読書・新聞を読む等、居室内で一人で過ごす時間も大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話などを使いご家族様とお話をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症が5類になり、面会の制限が解除になりました。	面会・外出・外泊の支援を実施している。面会は居室やエントランススペースで行われ、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮されている。また、個人情報保護の観点から、事前に家族へ確認を行ったうえで適切に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯たたみ、テーブルふきなど、共同生活の一部に参加して頂いています。 レクリエーションの際には皆様揃って参加して頂き、団らんを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも相談ができる様に対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用様が安全・安心に生活できる様に配慮をしています。 ご家族様にも協力を頂きケアのヒントにさせて頂く事もあります。	利用者の思いや意向を日常の会話や表情から丁寧に把握し、支援内容に反映している。 家族からの情報も参考にしながら、職員間で共有し、より個々に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り生活パターンが変わらない様に、施設内での生活に配慮しています。 自宅からの持ち込みの陶器でお茶を飲まれる事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当主治医との連携、ご家族様への報告等、職員間で情報共有をしています。 ご家族様に聞かれた時に職員が答えられる様に配慮をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、ユニット会議で意見交換を行い、ご家族様の意見も取り入れ介護計画に反映させています。	介護計画は年1回作成し、6か月ごとに見直しを実施している。利用者の状態に変化があった場合には、その都度モニタリングを行い、適宜対応している。家族や本人の意向を聞き取り、ユニット会議で意見交換を行い、内容を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末での個人入力、申し送り表、排泄表、バイタル表を使い対応しています。 日々の申し送りで職員間の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご利用者様やご家族様からのご意見やご希望を傾聴し、生活環境の改善やサービス向上に役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動の中でボランティアとして与野公園内の清掃活動にも参加しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に24時間ホームドクターとして対応をお願いしています。 必要時は臨時往診が行えるシステムが来ています。	訪問医は、内科医および歯科医が月2回の診療を行っている。主治医には、24時間体制でホームドクターとして対応を依頼しており、必要に応じて臨時往診を行うことができる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の訪問は、月4回です。 細かい相談が出来る様になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り退院をしてホームに戻る支援をしています。 現在では病院相談員さんより退院前に調査を依頼をされて相談が出来る様になりました。 出来る限り住み慣れた場所に戻れる様に入院中も関わりを持ち対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医にご家族様との面談を依頼しています。 出来る限りご家族様の意向を確認後終末期に備えています。	入居時に、重度化および終末期のあり方について説明を行っており、看取りにも対応している。本人および家族が納得して終末を迎えられるよう、話し合いを重ねて意向を確認し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急メールを使い本部との連絡を取っています。 本部からの指示で動く事もあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当社近隣施設主催の大規模防災訓練を実施しました。 地震体験車の体験、AED講習会、非常食の試食会、消火器の使い方を学びました。 当社近隣施設に訪問経験がない職員が参加しました。	年に2回、防災訓練を実施している。消防署からの助言や訓練時に明らかになった課題を職員間で共有し、防災意識の向上に努めている。また、大規模防災訓練にも参加し、地震体験車の体験、AED講習会、非常食の試食、消火器の使用方法について学んだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して人格を尊重していることから「あだ名」や「ちゃん付け」で呼ばない事を事業所のルールとしています。	利用者の人格と尊厳を尊重し、氏名は「さん」付けで呼称している。外部からの入居確認等の問い合わせには一切応じない方針とし、利用者のプライバシー保護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉遣いで、時にはマスクを外してお伝えしています。 大きな声でゆっくりとお話をする事も心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理なく個々のリズムに合わせて生活ができる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容を行います。 衣類の交換時は職員がお手伝いをする事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は常に見直しができる様に対応しています。 盛り付けなどは職員が行うため臨機応変に対応しています。	食事はチルド食を利用しており、刻み食やペースト食など、利用者一人ひとりの状態に合わせた提供を行っている。利用者とともに作るおやつや行事食は、食の楽しみとして好評を得ている。食後の片付けでは、職員と協力してテーブル拭きを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を別紙で確認しています。 必要に応じて医師に相談を行い、栄養接種できるものを処方して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科医師往診にて口腔内の確認、毎週歯科衛生士が訪問し口腔ケアを行っています。 職員は毎日の口腔ケアを習慣にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い排泄の確認を行っています。 排便コントロールが出来る様にドクターと連携をして対応しています。	排泄チェック表により排泄状況を把握し、トイレでの排泄が可能となるよう声かけや支援を行っている。夜間、トイレの利用が困難な方は、本人および家族と相談のうえ、状況に応じたおむつや紙パンツを使用し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に力を入れています 起床時の水分で1日の量が変わると勉強したので、起床時から朝食までの時間をゆっくりと水分摂取の時間にしていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には必ず声かけを行います。 体調の確認や入浴内容に関してご希望を確認することで、入浴を楽しんでいただけるよう心掛けています。	移動可能なシャワーチェアを導入し、利用者の状態に応じた入浴支援を行っている。入浴日は定めず、週2回を目安に実施し、便失禁時や外出前日にはその都度対応している。入浴を拒否される場合は、原因を把握し、誘導やタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室環境を整えています。 落ち着けるベッドや家具の配置、快適な室温の調整、いつでもお休み頂けるよう寝具を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員管理で対応しています。 鍵の掛かるキャビネットで薬の保管をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操を日課にしています、最近では健康増進サービス課による体操コンテンツが豊富で「ノーアエクササイズ」「ALSOKあんしんヨガ」「AKTレーニングタオル体操」など充実しています。 インストラクターによるリモート運動教室も月4回行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	6月24日にオレンジカフェを開催しました。 保育園へ訪問して園児とお茶をのみ演奏会で演奏を披露しました。 初めての体験でしたがとても良い経験が出来ました。	日常的には、職員が近隣での散歩や屋外レクリエーションを実施している。オレンジカフェでは保育園を訪問し、園児と一緒にお茶を楽しんだ。演奏会では演奏を披露し、初めての体験であったが、とても良い経験となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に必要な物は購入をお願いしています。個人的に小銭をお持ちのご利用者様もいらっしゃいますが、ご家族様にはリスクをご理解をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り対応しますが、精神状態が不安定な方はご家族様に一度内容を確認して頂く事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画作りに力をいれています。毎日時間を見つけてはご利用者様と一緒に作品を作成しています。職員の担当制で毎月個性溢れる作品を掲示しています。	室内は明るく開放的で、波型テーブルや座りやすい椅子など、利用者が自立して活動しやすい工夫がされている。温度や空調、湿度の管理にも配慮し、快適に過ごせる環境を整えている。季節の壁画づくりにも力を入れ、利用者とともに作品を制作し、毎月個性あふれる作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどをフロア内に置き、くつろげる時間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にご家族様の写真などを飾り、楽しんで頂いています。	居室には、椅子やテーブル、写真、ランプなど、思いのこもった品が置かれている。馴染みのある物に囲まれることで、利用者は落ち着いて過ごしている。清掃は職員が定期的実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のペースで時間をかけてでも、ご自身で出来る様に支援をしています。		

目標達成計画

作成日: 令和 7年 12月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	グループホームみんなの家・与野大戸での活動やイベントに地域の皆様を招待する企画を検討しましたが、チームオレンジのメンバーは参加して頂けたが一般の地域の方がたにはあまり参加いただけなかった。	地域の方がたに、みんなの家・与野大戸に来ていただけるような企画を職員と検討する。地域の方が「何に困っているか？」チームオレンジの活動時に伺い計画を検討する。	日常で困っている「オムツの選び方」「オムツの使い方」を知りたいと言う声を頂きました。運営推進会議、オレンジカフェのイベント時に勉強会の計画を検討する。	6ヶ月
2	12	ご入居してからのご本人の言葉や思いが伝わらない。お看取り時にご家族様だけの意向が優先されている。	ご本人のご意思をまとめた支援計画を検討する。カンファレンスにご家族様も同席して頂きご本人の思いを共有する。	ご家族様と医療機関の意向でお看取りの計画が決まってしまう傾向にあります。お看取り時に本人の意向が代弁できる様にお看取り前からご家族様と思いを共有して、その人らしいお看取りの支援を検討する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。